

清音村総合健診の基本健康診査結果の状況

- ・ 清音村総合健診の基本健康診査結果で、異常があった人の割合の推移を分析しました。
- ・ なお、基本健康診査受診者の結果を分析したので、基本健康診査受診者の健康問題が、そのまま清音村全体の健康問題と必ずしも一致しない場合があります。

清音村総合健診の基本健診受診者

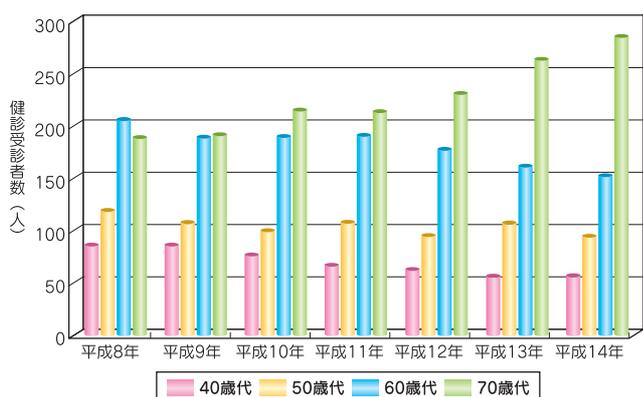
地区別受診者数

地区	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年
黒田	14	15	13	14	12	11	11
古地	19	18	18	15	12	18	16
上中島	159	154	152	160	158	153	158
柿木	212	205	198	193	190	209	204
軽部	120	112	124	121	113	117	124
三因	81	71	75	74	79	78	71
全体	605	575	580	577	564	586	584

毎年、600人弱の人が健診を受けており、地区別でも毎年ほぼ同じ人数の人が受けています。

年齢階級別受診者数の推移

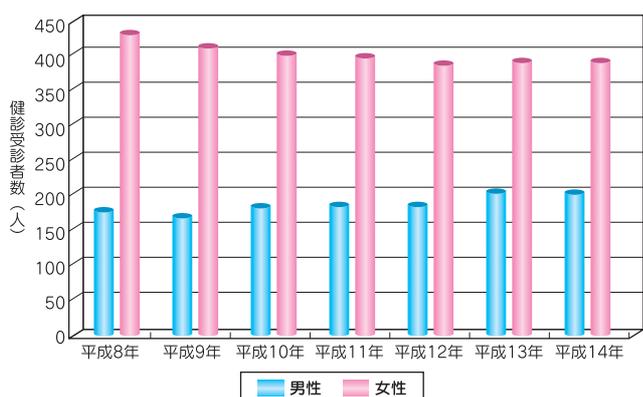
年代	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年
40歳代	88	86	76	66	63	56	56
50歳代	120	108	99	107	94	106	93
60歳代	207	189	190	191	177	161	151
70歳以上	190	192	215	213	230	263	284



70歳代以上の人の受診者数が増加し、60歳代の受診者数が減少しています。受診者のうち70%強の方が60歳以上の方でした。

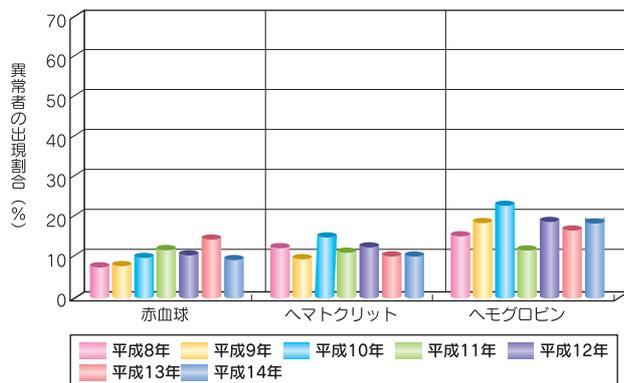
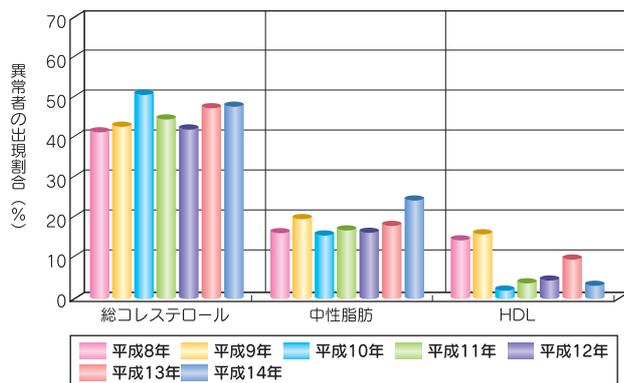
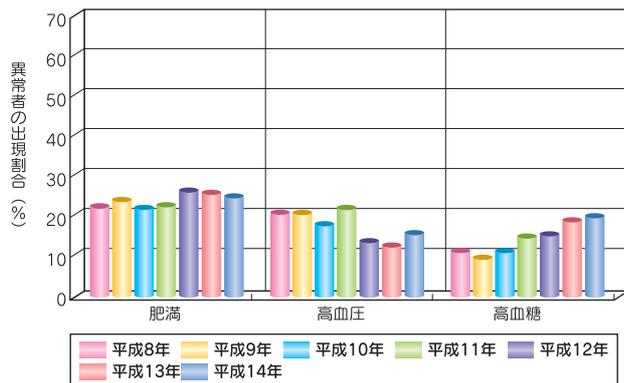
性別受診者数の推移

性別	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年
男性	174	164	179	180	179	199	197
女性	431	411	401	397	385	387	387



女性の受診者が若干減少しているようですが、女性の人数は男性のほぼ2倍程度になっています。

異常があった人の出現率の推移



健診の結果をそれぞれの検査項目の基準値で正常と異常に分類し、健診受診者中の異常があった人の出現率の推移をみました。

肥満者の出現率は毎年20%を超えています。高血圧の出現率は若干減少傾向があるようです。一方、血糖の高値異常のあった人の出現率は若干増加傾向にあることがうかがえます。

総コレステロールで高値異常があった人の出現率は最も高く、毎年受診者の40%以上が高値を示していました。中性脂肪で高値異常があった人も毎年約18%程度いました。HDLコレステロールで低値異常があった人の出現率は平成10年に激減しました。

赤血球で低値異常があった人の出現率は微増傾向がうかがえます。ヘマトクリットで低値異常があった人の出現率は毎年約10%でした。ヘモグロビンで低値異常があった人の出現率は約15~20%でした。

GOT、GPTで高値異常があった人の出現率は低く毎年約4%でした。γ-GTPで高値異常があった人の出現率は毎年約10%でした。

では、健診で異常があった人の出現率が上位の3項目、肥満者、高血圧者、総コレステロールで異常があった人の地区別の出現率の状況を見てみましょう。

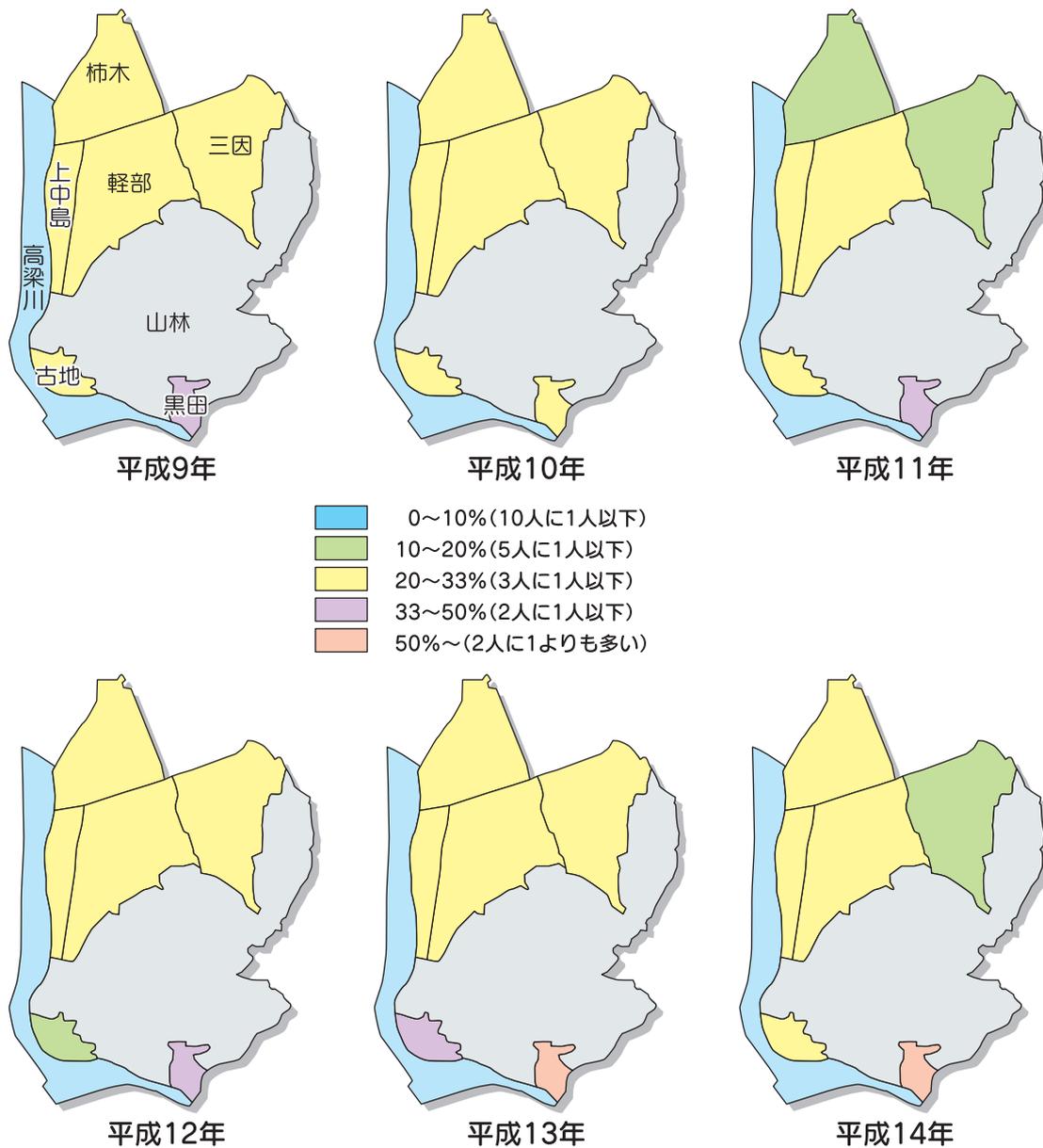
地区別肥満者の推移

肥満の程度を示すBMI

$$BMI = \frac{\text{体重(kg)}}{(\text{身長(m)})^2}$$

の値が25.0以上を肥満者としました。

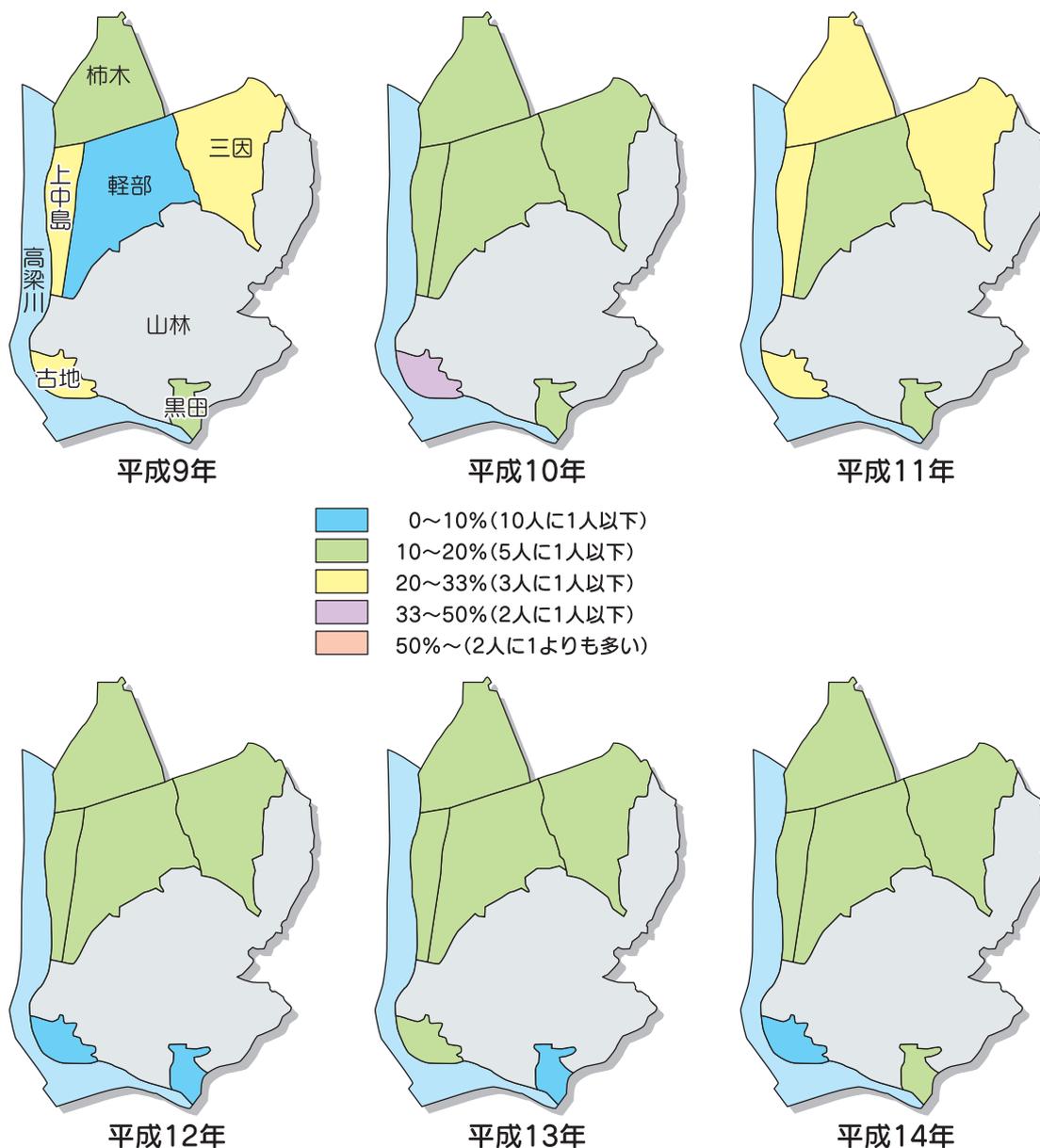
なお、18.5以上25.0未満が「普通」、18.5未満は「やせ」に分類されます。



健診受診者全体では、毎年20%程度の方が肥満でした。地区別では、黒田地区が若干肥満者が多いようです。

地区別高血圧者の推移

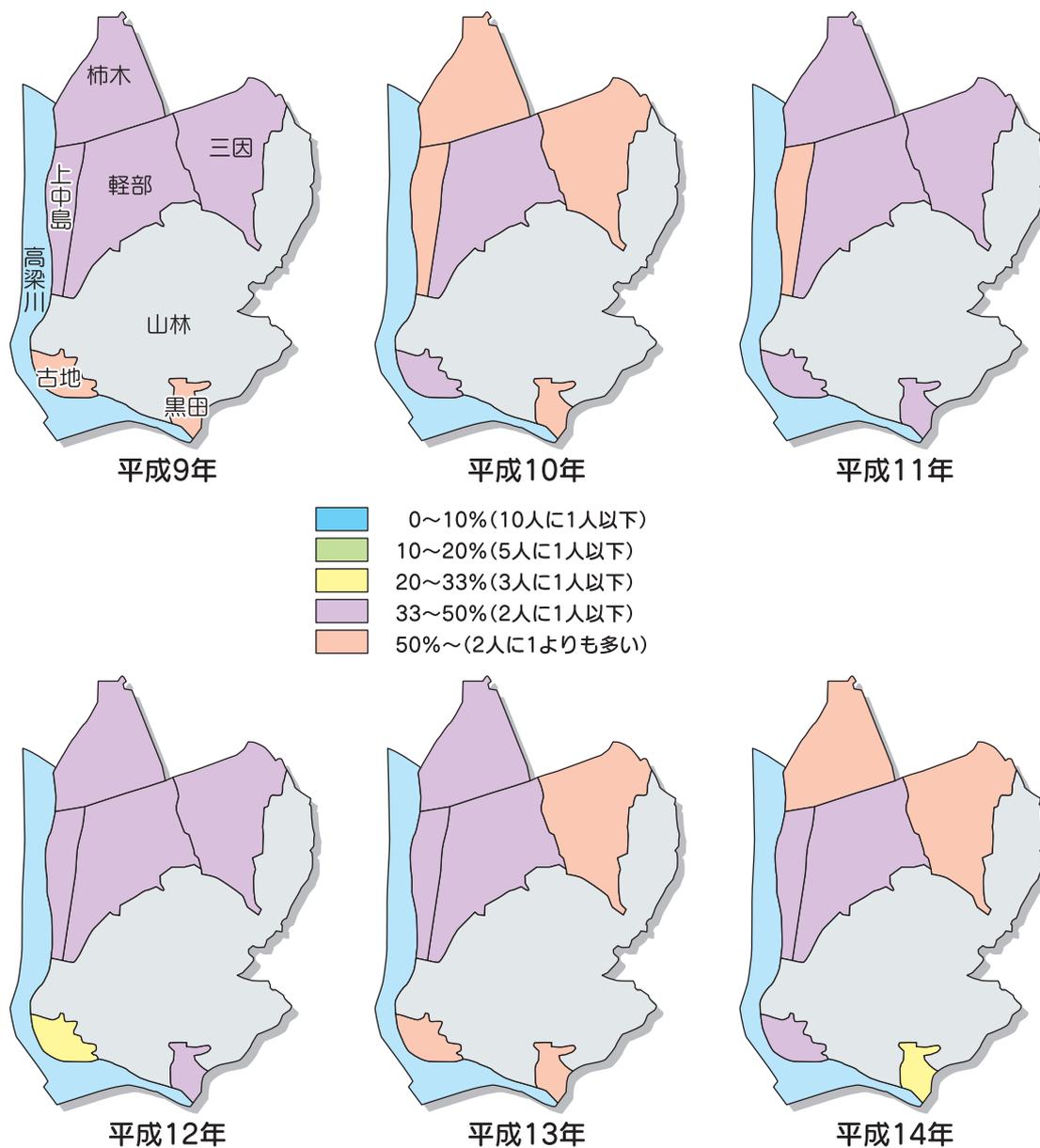
収縮期血圧（上の血圧）が160mmHg以上、拡張期血圧（下の血圧）が95mmHg以上のどちらか一方でもある人を高血圧者としました。



健診受診者全体では、平成8年から11年までは20%程度の方が高血圧でしたが、平成12年以降は10%程度までに減少しています。地区別では古地地区が若干高い傾向にありましたが、平成12年からは他の地区よりも低いあるいは同程度までに減少してきました。

地区別高コレステロール者の推移

総コレステロール220mg/dl以上を高コレステロール者としました。



健診受診者全体では、毎年40%以上の方が高コレステロールでした。地区別では、三因地区、柿木地区が他の地区よりも若干高いようです。